

2020年9月27日（日）

主 題：「予防は治療に勝る！」

一心の脱水症—

テキスト：ヨハネ福音書4章7-15節

### はじめに

- ・今日は、私たちの教会の「オープン・チャーチ礼拝」日です。  
まだ聖書を知らない方がたに、聖書から神様について判りやすくお語りする礼拝であります。はじめて教会に来られた方、はじめてメッセージをお聞きになる方、歓迎いたします。私はできるだけ、わかりやすくメッセージをさせていただきます。
- ・おもしろい話を聞いたことがあります。ある人が、チンパンジーを森の中に連れて行き実験をしました。チンパンジーの大好物はバナナです。森の木の枝に、それぞれバナナを吊り下げました。そこへ放されたチンパンジーがやってきました。
- ・チンパンジーはバナナを手に取り、皮をむいてモクモクと食べ始めました。しかし、満腹になると、それ以上バナナに手を出そうとはしませんでした。そして木の下で、ゴロリと横になり寝入ってしまいました。
- ・しばらくすると、起き上がり、空腹になると、チンパンジーは再び手を出してバナナを取り、皮をむいて食べ始めました。そして満腹になると、また寝入ってしまいました。チンパンジーは、そのパターンを何度も繰り返していたそうです。
- ・皆さん。この実験は何を教えているのでしょうか。チンパンジーはバナナを食べ、お腹が満腹になると、寝入ってしまい、空腹になれば食べ、また寝入ってしまうというパターンを繰り返しているだけであったということです。
- ・しかし私たち人間は好物を食べてお腹がいっぱいになり、チンパンジーのような動作を繰り返しているだけでは、満足はしません。人間は欲求が満たされただけでは、満足しません。
- ・今の時代、お金があれば、何でも手に入れることが可能でしょう。旅行にも行けるでしょう、自動車も買うことができるでしょう。立派な家に住むこともできましょう。しかし、それで人間は満足できるのでしょうか。いいえ、希望が満たされただけでは、本当の意味で満足はしません。
- ・チンパンジーは、お腹がいっぱいになれば満足し寝入ってしまいました。  
人間とチンパンジーには大きな違いがあります。それは人間にはチンパンジーにはないものがあることです。つまり⇒「心」(良心)です。心が満たされないならば、私たちは満足しないということです。もし皆さんがデパートに行って、店員さんに「心の平安を売るコーナーはあるでしょうか」と尋ねても、「そんなものは、ありません。」と言われることでしょう。
- ・ところで話は変わりますが、人間の渴きを癒すのは「水」です。今夏の猛暑は、たいへんなものでしたね。なかでも熱帯夜と呼ばれる夜が、大阪では40日間ほど続きました。そこで、クーラーなしで、水分補給もなかった方々（とくに高齢者）が、熱中症で病院へ緊急搬送されたことがありました。中には、残念にも命を落とした方々もいました。それに熱中症は昼間より、夜間の

方が多いそうです。なぜでしょうか？ ⇒ 夜間に「水分補給」がなかったからでした。

- ・熱中症から身を守る大切な予防の一つは、こまめに「水」を飲むことでもあります。もし仮に、私たちが「心の脱水症」を起こしているならば、癒してくれる「水」を飲むことです。問題は、自分は大丈夫だ、脱水症にはならないと思っていることです（事実、脱水症で病院に搬送された多数の人々がそう語る）。
- ・私たちは大丈夫でしょうか。聖書の中に、その「水」を求めた女性の話が出てきます。今日は、その話しをしたいと思います。

## 大切なポイント

### 1. 生ける「水」を求めなさい

- ・今から約2千年前、イエス・キリストというお方が、現在のイスラエルで生活していました。ガリラヤという地方に「ヤコブの井戸」という場所があり、そこには水を汲むことができる井戸がありました。イエス様は旅の疲れを覚え、井戸のかたわらに座っていました。
  - ・時は、昼ごろでした。1人のサマリアの女が水を汲みにやってきました。当時、ユダヤ人（イエス様）とサマリア人（異邦人）とは交流はなく、また接触もありませんでした。イエス様はサマリアの女に言われました。「わたしに水を飲ませてください。」その時、弟子たちは食物を買いに行っていたため、一緒にいませんでした。サマリアの女は言いました。
  - ・4:9 そのサマリアの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリアの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」ユダヤ人はサマリア人と付き合いをしなかったのである。イエス様はあえて、サマリアの女に近づいて言われました。
  - 4:10 イエスは答えられた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、水を飲ませてくださいとあなたに言っているのがだれなのかを知っていたら、あなたのほうからその人に求めていたでしょう。そして、その人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。
  - ・そして女は言いました。
  - 4:11 その女は言った。「主よ。あなたは汲む物を持っておられませんし、この井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れられるのでしょうか。
  - 4:12 あなたは、私たちの父ヤコブより偉いのでしょうか。ヤコブは私たちにこの井戸を下さって、彼自身も、その子たちも家畜も、この井戸から飲みました。」
  - ・そこでイエス様は、女に言われました。
  - 4:13 イエスは答えられた。「この水を飲む人はみな、また渴きます。
  - 4:14 しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」
  - ・すると女は、こう言いました。
  - 4:15 彼女はイエスに言った。「主よ。私が渴くことのないように、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」
- 彼女は真剣でした。彼女は本当に渴くことのない水が欲しいと願っていたのです。しかし彼女には過去がありました。イエスは彼女にこう言われました。
- 4:16 イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」
  - 4:17 彼女は答えた。「私には夫がいません。」イエスは言われた。「自分には夫がいない、と言

ったのは、そのとおりです。

4:18 あなたには夫が五人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたは本当のことを言いました。」

- ・イエスは彼女の過去をズバリと指摘され、そしてそのような生活から離れて、真の神から生ける水をいただく人生が、本当の満たしであると、彼女に言われました。
- ・皆さん！ 彼女の幸福感は、どこにあったのでしょうか。それまでの彼女の幸福感は、異性に向いていました。彼女はこの男性と結ばれば、幸いな家庭を持つことができるだろうと。いや、この男性であれば自分を幸せにしてくれるに違いない。と思い次から次に男を変え、ついにその時は6人目の男の人と同棲生活をしていたのでした。皆さん。彼女の心はどれほど渴いていたことでしょうか・・・
- ・当時、彼女のような行動は社会的に全く受け入れませんでした。それどころか、重罪でした。彼女は昼間、公に顔を出すことさえ、できませんでした。ですから、人目を避けて昼間に水を汲みにきていました（通常は、朝、夕の涼しい時である）。暑い中に水を汲みに来ることは、彼女にとってつらい時でした。しかし、とにかく渴いていたのです。水が欲しい！ ですから、彼女は水を汲みに来ました。

4:15 彼女はイエスに言った。「主よ。私が渴くことのないように、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」

- ・私たちが生活する今の時代、物質的には食べるもの、着る物、住む所などは、十分与えられています。これは、大変感謝なことです。しかし、いかがでしょうか。私たちの心は真に満たされているのでしょうか。「心の脱水症」(気づかない)をおこしてはいないのでしょうか。脱水症の予防は、「水」をこまめに飲むことです。
  - ・私たちは、人生の目標をどこに置いているのでしょうか。何のために働いているのでしょうか。何のために勉強するのでしょうか。人生の目的はどこにあるのでしょうか。あなたは、これらの問いに対し、答えを持っておられるのでしょうか。イエス様は言われました。
- 4:14 しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」
- ・では、どうすれば良いのでしょうか。それはイエス。キリストを知ることです。

## 2. イエス・キリストを見上げること

- ・では、この女とイエスとの対話を、もう少し考えてみましょう。3点

### 1) 経験（失敗）から学ぶ人生

- ・人生にはいろいろなことがあります。成功の背景には、失敗があります。失敗を通して、私たちは貴重なレッスンを学ぶことができます。そこでもし、失敗を生かすことがないならば、それは失敗で終わり、改善はなく、いつまでも失敗で留まります。しかし、失敗から貴重なレッスンを学び、生かすならば幸いです。

『例 話』本：「失敗は予測できる」光文社 313、中尾政之著

- ・「失敗学」の権威である中尾政之（なかおまさゆき）東大教授は、その著書の中で大変興味深いことを語っておられます。

「人間、生きていく限り、自分の周りに失敗はつきものである。失敗は多くの方が命を落とす大事故に至る失敗から、たとえば酔酩して財布を落とす失敗、入社試験に落ちるような日常的失敗まで挙げればキリがない。しかし、ある失敗は別のところで起きた失敗と、何らかの類似性がある。」

- ・中尾教授は、過去に起きた多くの失敗例から、もし類似性に気づきさえすれば「失敗は予測できる」と語っています。これは興味深いことです。一例として機械分野の失敗（事故や事件）をまとめ、「失敗知識データベース」を発表しました。大きく分けて3つの原因がある、と言います。

① 人間的な原因 (Human error)	46件
② エンジニア個人の設計能力不良	1064件
③ エンジニア個人の所属する組織の問題	825件

- ・このデータから分かることは、人間的ミスの原因はじつは避けることが可能であることです。そして注目したいのは、「偶発的事故はめったに起きない」こと。その確率は、わずか4%であると言います。
- ・中尾教授によれば、失敗は避けることは可能であります。しかし、自分は正しいと主張しているかぎり、失敗を認めないわけですから、その先はないことになります。
- ・皆さん。もし私たちに自分の失敗があるとしたら、私たちはそれをどのように生かしているでしょうか。サマリアの女から考えてみましょう。

## 2) サマリアの女に学ぶ

- ・彼女はどのような人であったでしょうか。少なくとも3点
  - ① 結婚生活に失敗を重ねていた (5人の男を変えたが・・・)
  - ② 社会的差別を経験した (サマリア人として軽蔑を受けた)
  - ③ 先祖伝来の井戸に真の救いはないことを経験した  
(1千年以上もつづくヤコブの井戸から、水を汲み飲んでいたら渇きがあった。彼女は繰り返し、水を汲んでいたが)
- ・ところがイエス様は、これら3点に対し全て回答を与えました。  
4:14 **しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」**
- ・サマリアの女から、もう一つ考えることがあります。

## 3) 出会いが人生を変えた

- ・注意して読んでください。イエスの方から、女に声をかけられました。  
4:7 **一人のサマリアの女が、水を汲みに来た。イエスは彼女に、「わたしに水を飲ませてください」と言われた。**
- ・サマリアの女は、イエス様との出会いがありました。イエス様は今日、目には見えませんが、霊的に存在してくださいます。そして私たちに声をかけ近づいてくださっています。

- ・しばらく前になりますが、私はネパールのポクラという町に行きました。ポクラは、美しいヒマラヤ山脈直下にある町です。そこには当時、ハンセン氏病で苦しんでいる人々が、多くいました。
- ・ドイツ時代の友人が、医療宣教師としてそこで奉仕をしていました。私が尋ねた療養所は100数十名の患者がいる施設で、毎週のように手術が行われていました。そこは薬品の強い臭いがただよっていました。
- ・丁度、日曜日の朝でした。礼拝に時間が近くづくると、鐘の音とともにあちこちから、療養所職員や患者たちが礼拝堂に集まってきました。礼拝が始まり、聖歌隊が前に立ち始めました。よく見ると、鼻が奥に落ち込んでしまった人、耳たぶが無くなった人、片腕の人、片足の人、松葉杖をついて立っている人など、不自由な方々ばかりでした。(まったくのアンバランス)
- ・やがて聖歌隊指揮者が前に立ち指揮棒を振り、賛美をリードし始めました。ところが前に立っている人たちは、失明した方々が多く、みなサングラスをかけていました。失明はハンセン氏病の1つの症状だそうです。また声帯失った人たちは、声を出すことができません。そこで彼らは喉に特殊な器具を当てて、音を拡大して賛美をしていました。ですから、彼らの賛美は音楽的には高いものではありませんでした。
- ・しかし、私は彼らの賛美を聴きながら、胸が熱くなるのを覚えました。私たちの体は必ず老いていき、やがて終わりが来ます。しかし彼らの賛美の姿からは、決して悲壮感はありませんでした。いいえ、彼らは希望に満ちた顔で、喜びをもって賛美していました。
- ・私は彼らの賛美の姿を見ていたときに、いったい何が彼らをこれほどまでに動かしたのだろうかと考えました。それは彼らの内側から出る喜びでした。イエス様に会い「生ける水」をいただいている人たちでした。彼らは、朽ちていくものではなく、神の国に入る信仰を持っていました。そこに人生最大の希望があることがわかりました。
- ・皆さん。人が本当に生きるということは、財産があるからとか、名誉や地位があるからだということではないことは明らかです。人は、神が与えてくださる「いける水」によって、生きる人となることができます。イエス様は言われました。「わたしが与える水はその人のうちで泉となり、永遠の命の水がわき出ます。」(4:14)
- ・では、どうすればその「命の水」を得ることができるでしょうか。それは、サマリアの女のように、自分の過去をありのまま、正直に告白することです。彼女は自分の過去を認め、イエス様に言いました。  
4:15 彼女はイエスに言った。「主よ。私が渴くことのないように、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」(告白)  
神が与えてくださる「水」は、聖書のみことばと共に働いて、私たちの心は渴くことはありません。サマリアの女は、その素晴らしい贈り物を手にしました。

## ま と め

主 題：「予防は治療に勝る！」

—心の脱水症—

・今日、イエス様は大切なことをお語りくださいました。それは「心の脱水症」にかからない解決法です。脱水症にかからないように「予防」をすることです。

その鍵は、次の点にあります。

1. イエス・キリストとの出会い
2. イエスから「永遠の命の水」を飲むこと

\* God bless you!